

別海町郷土資料館 だより

No.273 2022年4月号

ふるさと講座・歴史系第1回目

歴史の道を歩く

江戸時代のハツケ！

～野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる～



野付半島、野付通行屋跡遺跡は、「日本遺産 鮭の聖地の物語」の構成文化財です。

道内でも珍しい江戸時代の遺跡を訪ねます。
また、野付半島の春の息吹も感じられることと
思います。

●日 時 令和4年4月24日(日)
午前9時15分～午後1時

●場 所 野付半島
(集合-野付半島ネイチャーセンター2階)
ネイチャーセンターでお話の後、遺跡に移動しま
す。

●ガイド 別海町郷土資料館 石渡 一人

●定 員 10名

電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を4月22日(金)までにご連
絡ください。

●その他 長靴を必ず着用下さい。草分け道や海岸を5kmほど歩きま
す。ウォーキングにも最適です。

遺跡の見どころ！

野付半島は、全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)
(海上に長く突き出した形状で砂が堆積して出来た半
島)です。

半島の先端には、国後島へ渡るための要所として、
寛政11年(1799)に幕府によって設置された「野付通
行屋」の遺跡が残されています。

この遺跡は、2003～2005年に海岸浸食を受け崩壊
の恐れがあり、遺跡の半分を発掘調査しました。

遺跡の半分は、今でも現存し、当時のお墓、建物の
跡、畑の跡を見ることが出来ます

今回のツアーでは、遺跡にまつわるお話と現地の見
学により、幕末の当地の様子を知っていただきたいと
思います。

●1999年頃の野付通行屋跡遺跡(写真)



昔の道具を調べる授業！

12月から2月にかけて、町内小学校3年生の団体来館が多くなります。社会科で「昔のくらしと道具」という授業に入るからです。実際に昔の道具を見るには、当館が最適で、資料も豊富に展示されています。また、炭アイロン・洗濯板・湯たんぽ・灯油ランプなど、実際に道具使う体験も行っています。



郷土資料館をご活用ください！

郷土資料館は、施設の一般公開のほか、出前講座や出前移動展など、みなさまの希望に応じて実施しております。限られたメニューではありますがご活用ください。

●出前講座！

当館スタッフが学校(学級レクも可能)や地域の各団体へ出向いて講座を実施します。現在、下記メニューにより、別海町の歴史や自然をわかりやすくお話しします。

家族ぐるみや少人数の場合は(10人程度)、郷土資料館でも実施できます。メニュー以外でも希望がありましたらお電話で問合せください。

1. 昔々のべつかい

2. 幻の町キラクを探るー野付通行屋跡遺跡の発掘調査から

3. 加賀家文書とは？

4. べつかい缶詰物語

5. 西別川の献上鮭について

6. アイヌ文化ー

チャシ跡と別海アイヌの人々

7. 根釧パイロットファームについて

8. 化石にふれよう

9. 巣箱づくり



(写真) 昔々のべつかい
土器や石器にふれる
火おこし体験

●出前移動展！

1. 絵本雑録記～加賀伝蔵が見た風景～

2. 江戸時代のノツケを探る～野付通行屋跡遺跡発掘調査から～

3. 近世の別海を探るⅠ～ニシベツ・ベツカイ篇

4. 近世の別海を探るⅡ～海岸線篇

5. 近世の別海を探るⅢ～野付半島篇 6. 西別川の献上鮭

7. 義経伝説とヲ子コイチャシとチフルチャシの物語

8. 知られざる幕末会津藩北辺防衛の歴史

9. 別海町の農業の変遷をたどるジオラマ展 10. 終戦70年～別海と戦争

11. アイヌ文化-床丹1チャシ跡発掘調査から- 12. マンモスゾウがいた頃

13. 小澤彦三が見た昭和初期のべつかい

14. 北海道の名付け親松浦武四郎が見た根室

15. 北の開拓地で生命をむかえる-拓殖産婆と開拓保健婦たちの足跡～別海町お産の歴史～



マンモスゾウがいた頃

詳しくは、ホームページ
もご覧ください。

別海町郷土資料館だより No.273

発行日 令和4年4月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

令和4年度から、郷土資料館において文化財を担当することになりました。国史跡奥行臼駅通をはじめとする町内の文化財、文化遺産の調査・研究・保護・保存・活用を主な業務とします。新たな担当者も着任し新体制で臨みます。このたよりでも町内の文化財について紹介したいと考えています。